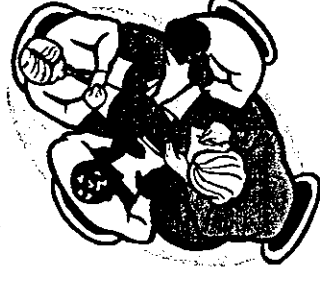


## 2 相談対応の体制

### コメディカル・外部関連機関の活用 ～小児科医アンケート調査結果より⑤

最後に、病気や具合が悪いときの対処法、子育て全般を含む子どもに関する各種相談については、今後、どのような体制で対応することが望ましいかとの問いに対しては、

- 「必要に応じて行政・NPOなど関連機関を紹介、活用するなど、  
小児科医がコーディネートして各種相談に対応していく」という回答が43.7%
- 「子育て全般の相談を含め、小児科医自身が出来る限り相談に  
応じていく」 という回答が42.0%
- 「小児科医は治療業務に専念すべきであり、各種相談は行政や  
救急センターなどで対応していく」 という回答が 2.6%



となっており、今後、子どもに関する相談に対しては、関連機関の紹介、活用を含め、小児科医が中心となつてこれに対応・コーディネートしていくべきとの考えが示されました。

### 3 小児科スタッフが求められる相談ニーズ

---

#### 小児科スタッフが求められている相談ニーズ～両親からのニーズ調査結果より①

1年度の研究成果より、両親からの相談に対応するだけでなく、保健医療サービスの利用法や子どもへの事故予防、育児に関する情報提供・教育（医療的な内容以外を含む）を両親に実施することが、結果として小児科スタッフの負担軽減につながる可能性があることから、子育てなどに関する両親の相談ニーズ調査を実施いたしました。

企業健康保険組合の100名のご両親に実施した聞き取り方式によるアンケート結果（回答者96名）より、

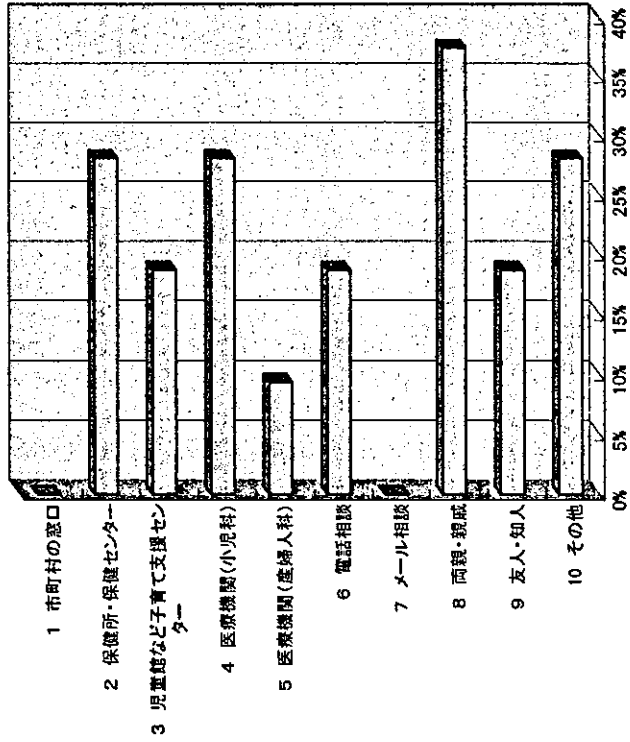
- 行政・医療機関（主に小児科）のほか、両親・友人などの相談チャネルの利用割合が高いが、どこに相談して良いかわからないケースが多い
- 相談内容に合った窓口へアクセスできていないことが不満につながっている可能性
- 全体としては、顔を合せた個別相談（受診）にニーズが集中しているが、次世代育成支援対策推進法でうたわれているインターネットの活用や相談内容に応じたチャネルニーズがあること

などが把握されました。

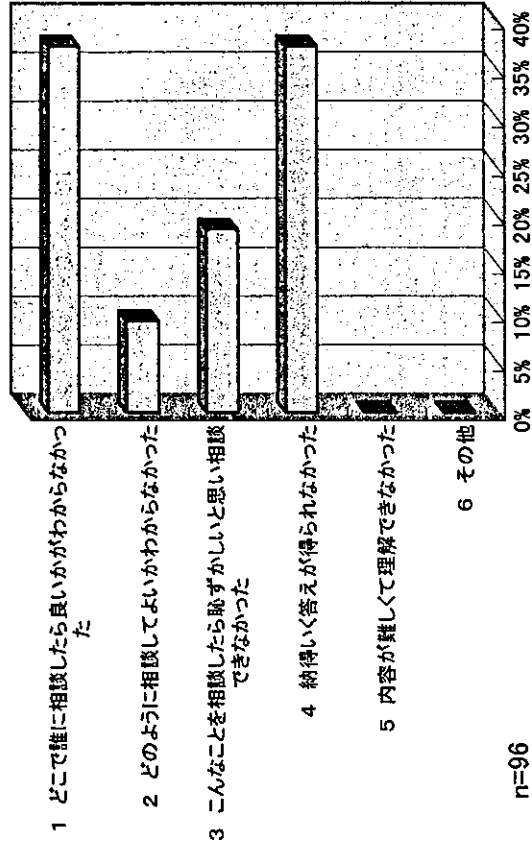
### 3 小児科スタッフが求められる相談ニーズ

#### 小児科スタッフが求められている相談ニーズ～両親からのニーズ調査結果より②

子育て相談で利用したことがある窓口など



相談で困ったこと



### 3 小児科スタッフが求められる相談ニーズ

---

#### 小児科スタッフが求められている相談ニーズ ～両親からのニーズ調査結果より③

相談内容別にみると、発熱時・嘔吐時、お腹の痛みの時、頭を強打した時は顔を合せた個別相談（受診）というチャネルニーズが高く、誤飲した時、薬のことは電話相談のチャネルニーズが、ワクチン接種のこと、薬のことはWeb上の個別相談ニーズ、夜寝ないことはグループ相談のニーズが高くなっていました。

全般的に、顔を合せた個別相談（受診）というチャネルニーズが最も高く、医療機関だけに負担が集中するのを改善するためには、行政、NPOはじめ複数の相談窓口が利用者のニーズに合わせて利用されることが最も望ましいと考えられます。

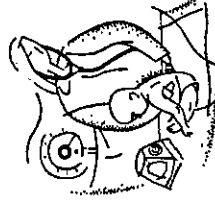


## 4 小児科スタッフの役割

---

### 核家族の子育て支援機能を有すること

たとえば適切な相談窓口に導いてあげること ～これも小児科スタッフの役割



本研究で、ご両親がどこに相談して良いかわからないというケースが多くみられました。

両親や友人といった相談チャネルの利用割合が高いことも、それを反映した結果かもしれませんが、一方で、小児科など医療機関で子育て相談をした経験割合も高くなっています。

また、相談内容に合った窓口へアクセスできていないことが示唆されており、相談が必要となったケースごとに、適切な相談窓口へのナビゲーションが必要であると考えられます。

このような結果の背景には、近年の核家族化や女性の就業率の向上、地域における子育て支援機能の低下などの社会環境の変化により、世帯ごとに、また母親・父親の個別で子育てを遂行していくことが難しいことが挙げられます。

そこで、小児科スタッフに求められる重要な役割のひとつは、「核家族の子育て支援機能を有すること」であり、的確な相談対応と必要に応じて適切な相談窓口を紹介してあげることと考えられます。

## 4 小児科スタッフの役割

---

### 適切な相談窓口への紹介



各所在地における行政機関

保健所(都道府県): 健康相談、難病・結核・小児慢性疾患(喘息、腎炎等)、感染症などに関する窓口  
市町村・保健センター: 乳幼児の健診、予防接種、健康相談、母子健康手帳交付、子育て相談・子育て支援NPOなどに関する窓口

児童相談所: 児童及び家庭に関する問題についての相談、児童及びその保護者の指導に関する窓口

### 全国的な関連機関

国立感染症研究所感染症情報センター <http://idsc.nih.go.jp/vaccine/vaccine-j.html>: 予防接種、感染症などに関する情報提供・相談

独立行政法人医薬品医療機器総合機構 <http://www.pmda.go.jp/>: 薬に関する情報提供・相談

日本薬剤師会 <http://www.nichiyaku.or.jp/>: 薬に関する情報提供・相談

日本外来小児科学会 <http://www.gairai-shounika.jp/>: 子育て・小児医療に関する情報提供  
(<http://www.noblepress.jp/> 子どもの健康リーフレットなど)

日本医師会キッズクラブ <http://www.med.or.jp/kids/index.html>: 子育て・小児医療に関する情報提供

# 小児科スタッフの子育て支援に向けて

～スタッフ向けマニユアル(見本)～

---

2005年3月

厚生労働省子ども家庭総合研究事業

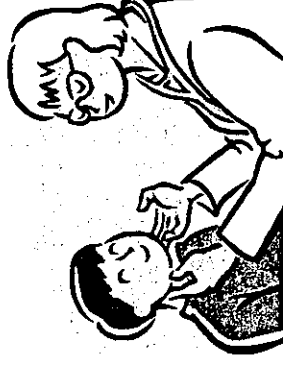
「子育て時における両親の相談ニーズ把握及び保健医療福祉スタッフ支援モデル研究事業」  
(主任研究者 日暮眞)

## はじめに

---

このマニュアルは、小児科スタッフが治療だけでなく、ご両親などからの相談などに積極的に対応し、少子化・核家族化社会における子育て支援に積極的に関与していくことを推進・支援する目的で作成したものです。

作成にあたっては、本研究班で実施したご両親などからの子育て相談に関するアンケート調査結果や子育て相談会でのご意見を踏まえ、また、小児科医の先生方からの相談対応などに関するアンケート調査結果、日常業務に関するタイムスタディ調査結果などを参考にさせていただきました。



厚生労働省子ども家庭総合研究事業

「子育て時における両親の相談ニーズ把握及び

保健医療福祉スタッフ支援モデル研究事業」(主任研究者 日暮眞)



# 1 小児科スタッフの子育て支援に関する姿勢 ～相談対応の基本姿勢

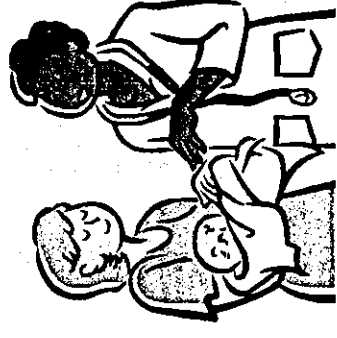
---

近年の日本では、高齢化とともに、大変早いスピードで少子化が進行しています。

このことは、家庭や地域で子どもの人数が少なくなり、兄弟のいる子どもが少なくなったり、地域に同世代の子どももいる家庭が少なくなるだけでなく、少子化による労働力不足に伴う女性の就業率の向上や核家族化などによる家庭における子育て機能の弱体化、都市化・情報化などによる地域社会での子育て支援機能の弱体化につながっていると考えられます。

このような背景のもと、最近のご両親は、子育て時に気軽に相談する祖父母、隣近所がない場合も少なくなく、病気のときに受診する「かかりつけの小児科」は、病気のことだけでなく、子育て全般に関する相談役として期待されているのです。

また、雑誌・テレビだけでなく、インターネットなどIT技術の普及により、子育てや健康に関する情報が氾濫しており、時には情報を整理し、情報の洪水に流されてしまっているご両親を正しい方向に導いてあげることも重要な役割のひとつかもしれません。



## 2 相談対応の体制

---

### 小児科医の置かれている現状 ～小児科医タイムスタディ調査結果より①

医療関連法制度の改革や診療報酬制度の変遷、少子化などに伴う小児科施設の減少などにより、小児科関連施設の機能分化が進みつつあります。一方、少子化に伴い小児科医師及び施設(かかりつけ医を含む)が減少している中、両親からの相談対応など、現場のスタッフに多大な負担が生じている可能性があります。

このような背景に基づき、機能の異なる医療機関で、相談対応状況を含め小児科医の業務の現状を把握することとしました。



調査対象としては、

- 地域医療機関(診療所)小児科医
- 専門医療機関(一般病棟)小児科医
- 専門医療機関(NICU)小児科医

の3つとし、調査方法は、調査員同行による分単位のタイムスタディ調査を行い、業務内容ごとに分類し、相談対応を形態別に把握しました。

## 2 相談対応の体制

---

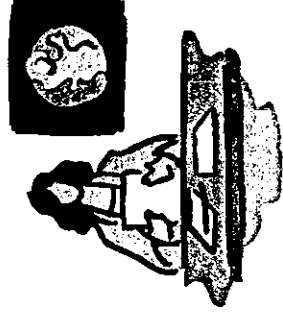
### 小児科医の置かれている現状 ～小児科医タイムスタディ調査結果より②

調査より、医療機関別に次の特徴が整理されました。

- 地域医療機関（診療所）では、相談に対応する時間が長いこと
- 専門医療機関（病院一般病棟）では、診療付随作業、打合せ・調整、待機、スタッフ教育など診療関連業務時間が長いこと
- 専門医療機関（NICU）では、専門的な相談対応、その他（移動など）に要する時間が長いこと

また、相談対応内容については、診療所では、薬のことやワクチン、食事のことなど、医療だけではなく、子育て全般に関する相談が多くなっていました。

一方、専門医療機関では、一般病棟では相談に応じる時間帯はあまりなく、NICUでは専門的な相談内容が多くなっていました。



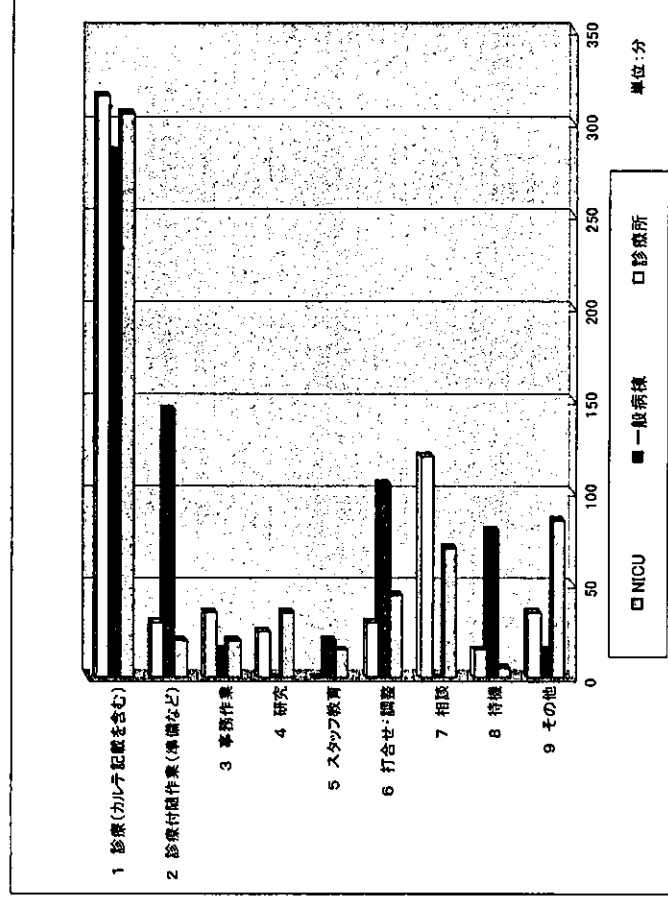
## 2 相談対応の体制

### 小児科医の置かれている現状～小児科医タイムスタディ調査結果より③

調査結果より、機能の異なる医療機関における小児科医の業務が内容別に定量的に把握ができ、全体の業務における相談対応の割合が示されました。

また、ご両親の相談ニーズに対応している小児科について、施設に応じて相談内容や期待される機能が異なることが把握され、同時に地域の小児科診療所には子育て全般の相談がなされていることが示されました。

医療機関別の業務内容内訳



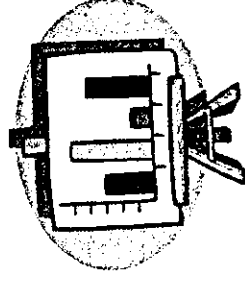
## 2 相談対応の体制

---

### 小児科医の置かれている現状 ～小児科医アンケート調査結果より①

では、地域の小児科において、子どもに関する相談がどの程度されており、先生方スタッフがどのように対応されて、どのような点でご苦労があるのかなどについて把握をし、今後の相談体制の整備のあり方や小児科スタッフへの支援策などの検討資料とさせていただく目的で、小児科医の先生方へアンケート調査を実施させていただきました。

アンケート調査の実施にあたっては、日頃より小児科医療に貢献されている日本外来小児科学会にご協力をいただき、会員名簿から無作為に500名の会員の先生方を抽出させていただき、アンケート調査票を送付させていただきました。



## 2 相談対応の体制

### 小児科医の置かれている現状 ～小児科医アンケート調査結果より②

調査結果から、相談内容ごとに、1週間で相談があるか、また相談がある場合、どの程度それらの相談に時間を費やしているかが把握されました。

#### ①病気に関する相談

「相談あり」という回答が82.4% 1週間で相談に費やす時間は平均63.6分

#### ②治療法に関する相談

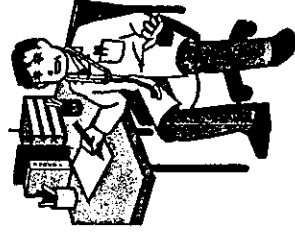
「相談あり」という回答が76.5% 1週間で相談に費やす時間は平均47.7分

#### ③子どもの発育に関する相談

「相談あり」という回答が79.8% 1週間で相談に費やす時間は平均41.3分

#### ④子育て全般に関する相談

「相談あり」という回答が79.0% 1週間で相談に費やす時間は平均41.5分



このように、病気に関する相談時間は最も多いものの、子どもの発育や子育て全般に関する相談時間もその3分の2程度の時間が費やされていることが示されました。

## 2 相談対応の体制

---

### コメディカル・外部関連機関の活用 ～小児科医アンケート調査結果より③

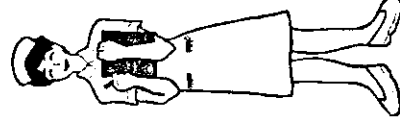
また、相談を受ける場合に、

「医師のみが対応している」という回答は52.9%

「相談内容によって診療所内のコ・メディカルや事務職員を活用している」という回答は43.7%

「相談内容によって診療所・病院外の関係機関を紹介している」は62.2%

であり、相談を受けた場合に、小児科医自身以外に、診療所・病院内のコ・メディカルや事務職員、診療所・病院外の機関などを活用・紹介して対応されている場合もありました。



## 2 相談対応の体制

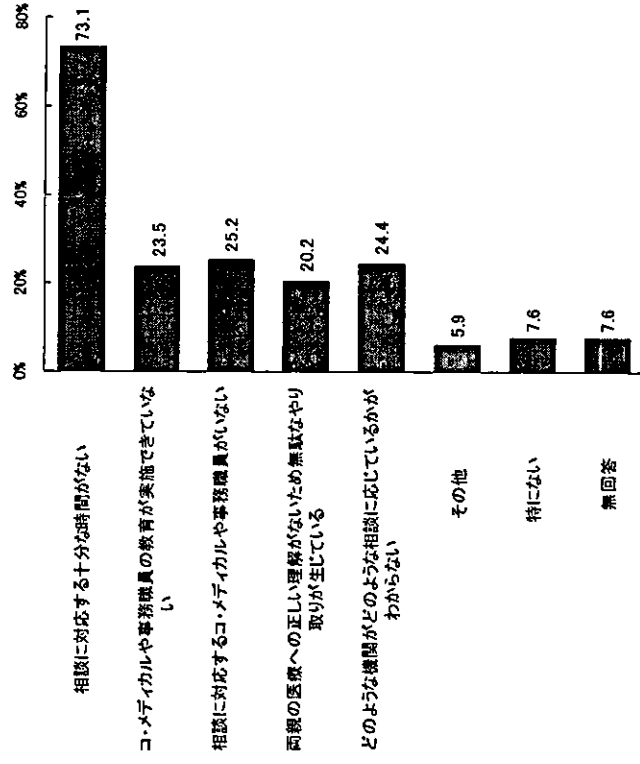
### コメディカル・外部関連機関の活用 ～小児科医アンケート調査結果より④

さらに、相談を受ける場合の困難点としては、

「相談に対応する十分な時間がない」	73.1%
「相談に対応するコメディカルや事務職員がいない」	25.2%
「どのような機関がどのような相談に応じているかがわからない」	24.4%
「コメディカルや事務職員の教育が実施できていない」	23.5%
「ご両親の医療に対する正しい理解がないため無駄なやり取りが生じている」	20.2%

が挙げられており、時間がないこと以外では、コメディカルの人材確保・教育や外部機関の活用に関する困難点が示されました。

問5. 両親などから各種相談を受ける上での困難点





## 2 相談対応の体制

### コメディカル・外部関連機関の活用 ～小児科医アンケート調査結果より⑤

最後に、病気や具合が悪いときの対処法、子育て全般を含む子どもに関する各種相談については、今後、どのような体制で対応することが望ましいかとの問いに対しては、

「必要に応じて行政・NPOなど関連機関を紹介、活用するなど、

小児科医がコーディネートして各種相談に対応していく」という回答が43.7%

「子育て全般の相談を含め、小児科医自身が出来る限り相談に

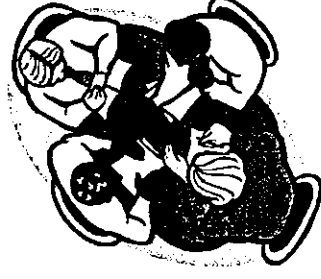
応じていく」

という回答が42.0%

「小児科医は治療業務に専念すべきであり、各種相談は行政や

救急センターなどで対応していく」

という回答が 2.6%



となっており、今後、子どもに関する相談に対しては、関連機関の紹介、活用を含め、小児科医が中心となつてこれに対応・コーディネートしていくべきとの考えが示されました。

### 3 小児科スタッフが求められる相談ニーズ

---

#### 小児科スタッフが求められている相談ニーズ～両親からのニーズ調査結果より①

1年度の研究成果より、両親からの相談に対応するだけでなく、保健医療サービスの利用法や子どもの事故予防、育児に関する情報提供・教育（医療的な内容以外を含む）を両親に実施することが、結果として小児科スタッフの負担軽減につながる可能性があることから、子育てなどに関する両親の相談ニーズ調査を実施いたしました。

企業健康保険組合の100名のご両親に実施した聞き取り方式によるアンケート結果（回答者96名）より、

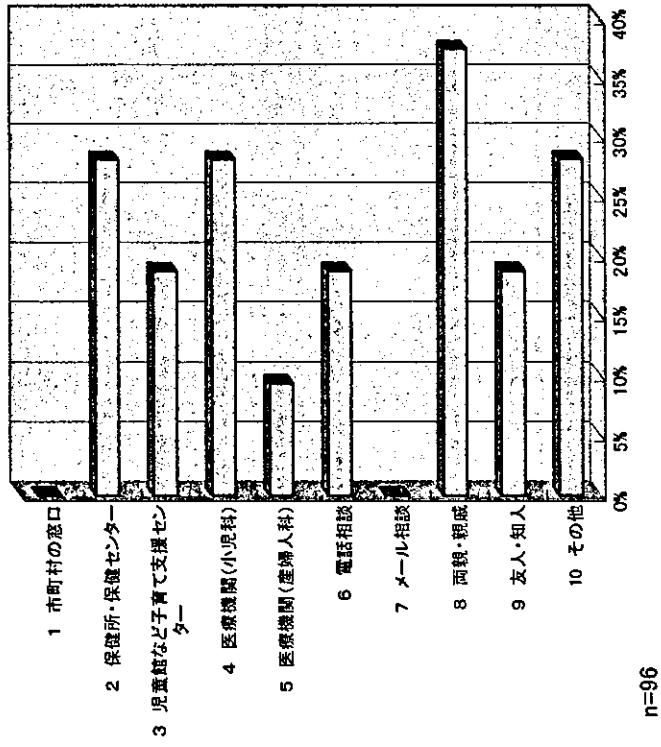
- 行政・医療機関（主に小児科）のほか、両親・友人などの相談チャネルの利用割合が高いが、どこに相談して良いかわからないケースが多い
- 相談内容に合った窓口へアクセスできていないことが不満につながっている可能性
- 全体としては、顔を合せた個別相談（受診）にニーズが集中しているが、次世代育成支援対策推進法でうたわれているインターネットの活用や相談内容に応じたチャネルニーズがあること

などが把握されました。

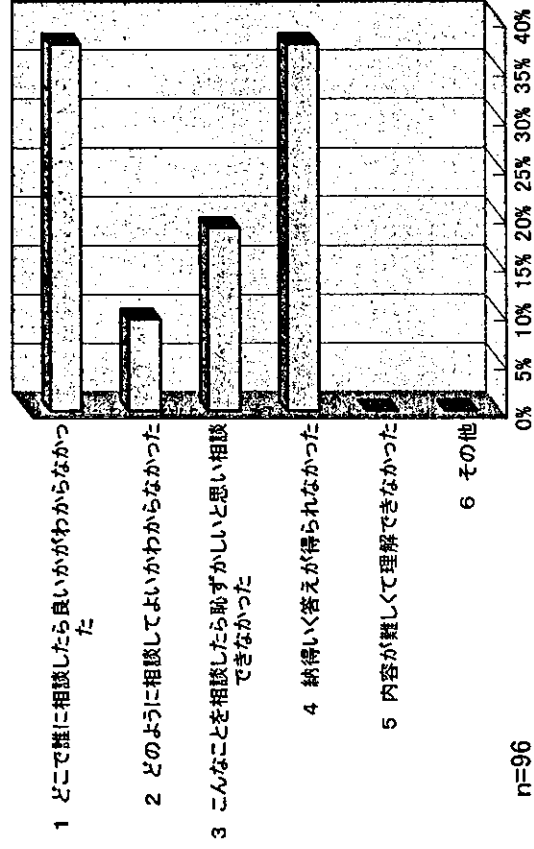
### 3 小児科スタッフが求められる相談ニーズ

#### 小児科スタッフが求められている相談ニーズ～両親からのニーズ調査結果より②

子育て相談で利用したことがある窓口など



相談で困ったこと



### 3 小児科スタッフが求められる相談ニーズ

---

#### 小児科スタッフが求められている相談ニーズ ～両親からのニーズ調査結果より③

相談内容別にみると、発熱時・嘔吐時、お腹の痛みの時、頭を強打した時は顔を合せた個別相談(受診)というチャネルニーズが高く、誤飲した時、薬のことは電話相談のチャネルニーズが、ワクチン接種のこと、薬のことはWeb上の個別相談ニーズ、夜寝ないことはグループ相談のニーズが高くなっていました。

一般的に、顔を合せた個別相談(受診)というチャネルニーズが最も高く、医療機関だけに負担が集中するのを改善するためには、行政、NPOはじめ複数の相談窓口が利用者のニーズに合わせて利用されることが最も望ましいと考えられます。

